



阿蘭陀船圖說

天明二年林子平出板



國航毛紅

阿蘭陀一名、和蘭又紅毛ト称スル、其國名アラムニヤ、中一州ヘソ、子ユアルランニヤハ、日以西北、歐羅巴今呼、國ヘ其地七州十七都會アリ、テラノ父キ其中ノ州ヘ本邦モ物名ハ日本ニア、其地四國九郡、新ト合シテ、如キ物ヲ前ニ衣ハロツフドテ、福半ノ如キ物ヲ眼ス、官アル者ハミドルトテ、丸合組、如キ物ヲ禮服ヲセキセキハコトテ、トテ小麥ノ粉ヲ餅造、食之後食之也、ハント云モノ是く其外也、文字ヨリシテル、云其事法攝、言ハ日本、唐、山等ノ人ニ不讀、其眼ハニルシテ、日本ノ服鳥飲膏、深、物ヨ好、又生薑、薑ヲ多食ス、其國日本ヲ去テ日本、道一万三千里ヘ本中日本ヨリ、吼哇、三千里、吼哇、リヨランダヘ二万里、ノ松毎年日本、來シラシタ人、本國ヨリ来ル、此、皆吼哇ヨリ来リ、吼哇ハラニバカリ、押讀ニタル國ニテ、出張城アル所ヨリ、バタアビヤト云日本、紅毛詠、出島トベカ、如シ吼哇、日本ノ正南、當レリ此故ニ、般帆、是テ定式、ス格ニシタ人、船ヲ呼テシチツフト云、其船、甚社大材用ニ、船、骨室ヲ作り、角材、以テ、船横打合、空隙、穴、漆或、千ヤンヨビ、又外圓水、入處、懸鉛、炮每、三番目ノ五ヲ、入ベシ、其船、來人九百余、人、其中、カジキ、ヘトル、レケナル、桂高キ十九丈、八尺、内、總三井、船每、九尺、帆、四本アリ、中身ノ大、以テ包、船、太ナ横、三丈、余十五丈、憾、數十六、四面、大炮、三十餘口ヲ、設ク、炮每、三番目ノ五ヲ、入ベシ、其船、來人九百余、人、其中、カジキ、ヘトル、レケナル、フリフニシ、ステユリ、一杯ト、大役名ニテ上役、ヲラシタ人、其餘ノ下人ヨリ、タロースト云甚、颶、風俗、又下人、中、鹿、スワドルヨンコト云モノ、アリ、世、萬、ホウトモ、是人是、本國ノ人ニ非シジ、ガタス、アキス、ホクトン、テモル、杯云、南海ノ、嶋々、下人、ナラン、父人、貢取テ、名々、使者、トル、也、皆、鰐、故其人甚黑、色、又、船、每、名アリ、或、セードイ、或、スター、ヘニス、或、ボイストスベ、一、木ト云、人日本、テ何九、ト名、ノクルナ加シ、板其船、載、來ルモノハ、砂糖、蘇木、藤、羅紗、天鵝織、與、鳴、海、黃、緜、木香、阿仙、葵、丁子、山、飯、來、胡、桃、又、硝子、燐、目、鏡、其外、珍、奇、鳥、獸、ノ、又、其食料、牛、豕、雞、鷄、類、各、數、百、千、噸、亦、日本ヨリ、持、飯、物、ハ、銅、百、万、行、定、式、トシテ、其外、金、磁、器、漆、器、銅、錠、銅、錢、小、簡、物、頭、纏、物、類、之、食、物、ハ、界、酒、松、子、焰、漬、大、根、諸、草、瀆、物、又、各、數、百、千、噸、其、船、九、千、萬、行、ヲ、受、取、其、國、商、業、ヨリ、今年、直、五千、四、百、二、年、十九、阿蘭院、ト、云、号、ヲ、立、ト、國、主、ヨリ、今年、直、百、四、十三、年、綱、ノ、不、絕、絆、也、天、明、二、年、記、國、主、統、脉、變、革、ナ、寛、永、十七、年、商、業、免、許、アリ、ヨリ、今年、直、百、四、十三、年、綱、ノ、不、絕、絆、也、天、明、二、年、記、



本國長崎人西島仰吉藏板也

林先生多年心血を注ぎ、油國文集
を公勧を二巻とし天明六年上巻を
刊行した後、中下兩巻、刻葉を了
三月十九日上級序を傳す。因みに
阿榮院脇と仙臺に於く再校、
一枚銀三文目アリ。遠近の知人
其他同士の人々に贈り刻葉の補
足ヒテ。寛政二年五月天明ノ後
八年なり。

大
都

卷之三